

(トップページ:<http://mylibrary.maeda1.jp/>)

(五大石油会社の業績比較:<http://mylibrary.maeda1.jp/SuperMajors.html>)

(ブログ「石油と中東」:https://blog.goo.ne.jp/maedatakayuki_1943)

マイライブラリー:0518

(注)本稿は 2020 年 11 月 3 日から 23 日まで 11 回に分けて「ブログ・石油と中東」に掲載したレポートをまとめたものです。

2020.11.25

前田 高行

ポスト・コロナ、ポスト化石燃料で苦闘する国際石油企業:2020 年 7-9 月期決算速報

スーパーメジャーと呼ばれる五大国際石油企業(ExxonMobil、Shell、BP、Total 及び Chevron)の7-9月期決算が相次いで発表された。ここでは売上高、利益(総合、上流部門、下流部門)、売上高利益率、設備投資、キャッシュフローおよび石油・天然ガス生産量について各社の業績を横並びで比較するとともに各社の四半期決算の推移を検証する。

決算の詳細は以下の各社のホームページを参照されたい。

ExxonMobil:

https://corporate.exxonmobil.com/News/Newsroom/News-releases/2020/1030_ExxonMobil-reports-results-for-third-quarter-2020

Shell:

<https://www.shell.com/media/news-and-media-releases/2020/third-quarter-2020-results-announcement.html>

BP:

<https://www.bp.com/en/global/corporate/news-and-insights/press-releases/third-quarter-2020-results.html>

Total:

<https://www.total.com/media/news/communiqués-presse/third-quarter-2020-results>

Chevron:

<https://www.chevron.com/stories/chevron-announces-third-quarter-2020-results>

なお過去の四半期業績及び2010年から2019年までの通年の業績比較は下記レポートを参照されたい。

<http://mylibrary.maeda1.jp/SuperMajors.html>

<u>目次</u>	<u>頁</u>
1. 五社の4－6月期業績比較	
(1)概要	3
(2)売上高	3
(3)総合損益	4
(4)売上高利益率	5
(5)上流部門の利益	5
(6)下流部門の利益	6
(7)設備投資	7
(8)キャッシュ・フロー	7
(9)原油・ガス生産量	8
2. 2019年第2四半期以降の四半期別業績の推移	
(1)売上高の推移	9
(2)利益の推移	10
(3)売上高利益率の推移	11
(4)部門別利益の推移	
(4－1)上流部門	11
(4－2)下流部門	12
(5)設備投資の推移	13
(6)キャッシュ・フローの推移	
(6－1)営業キャッシュ・フロー	13
(6－2)投資キャッシュ・フロー	14
(6－3)財務キャッシュ・フロー	14
(6－4)キャッシュ・フロー期末残高	15
(7)原油・天然ガス生産量の推移	
(7－1)原油生産量	15
(7－2)天然ガス生産量	16
(7－3)原油・天然ガス合計生産量	17

1. 五社の7-9月期業績比較

(売り上げは前期比4割増に回復、それでも前年同期の6割にとどまる！)

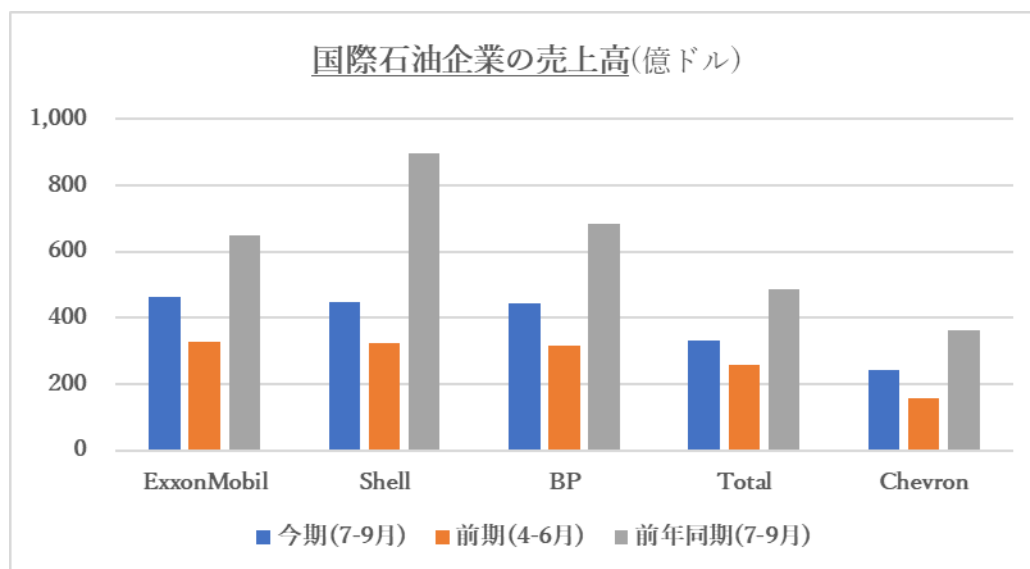
(1)概要(末尾表 1-D-4-22 参照)

世界経済は新型コロナウイルスの深刻な影響から抜け出せていないが、各国は経済回復の足掛かりとして大型の景気刺激策を実施している。その結果、エネルギー需要も今年前半の底を脱し増加傾向にある。国際石油企業五社の7-9月期の売り上げは前4-6月期に比べて4割前後増加し、また損益も Shell 及び Total はプラスに転じ、BP、Chevron の赤字幅も前期の二桁から今期は一桁に縮小している。但し前年同期(2019年7-9月期)に比べると売り上げは6割程度にとどまっており、利益は遠く及ばない状況である。

各項目について五社を横並びで比較した場合、売上高、設備投資、原油及び天然ガス生産量では ExxonMobil がトップである。総合損益、売上高利益率及び下流部門の利益は Shell が最も大きく、BP は上流部門の利益が5社中最も多い。

(最悪期を脱したか、なお予断を許さないコロナの第二、第三波！)

(2)売上高



2020年7-9月期の売上高は前期(4-6月期)の記録的な落ち込みに比べ4割前後増加したがそれでも前年同期(2019年7-9月期)の6割前後にとどまっており、コロナ禍以前の水準にはまだまだ及ばない。

売上高がもっとも多かった ExxonMobil の今期の売上高は462億ドルであったが、これは前期(326億ドル)に比べ42%増であるが、前年同期(650億ドル)に比べ未だ3割少ない。また Shell の今期売上高447億ドルは対前期比38%増、対前年同期の50%である。BP の今期売上高は443億ドルであるが、これは対前期比4割増、前年同期より35%少ない。同様に Total 及び Chevron は売上高が331億ドル及び245億ドルであったが、両社は対前期比でそれぞれ+29%、+54%であり前年同期に比べると共に7割弱の水準であった。

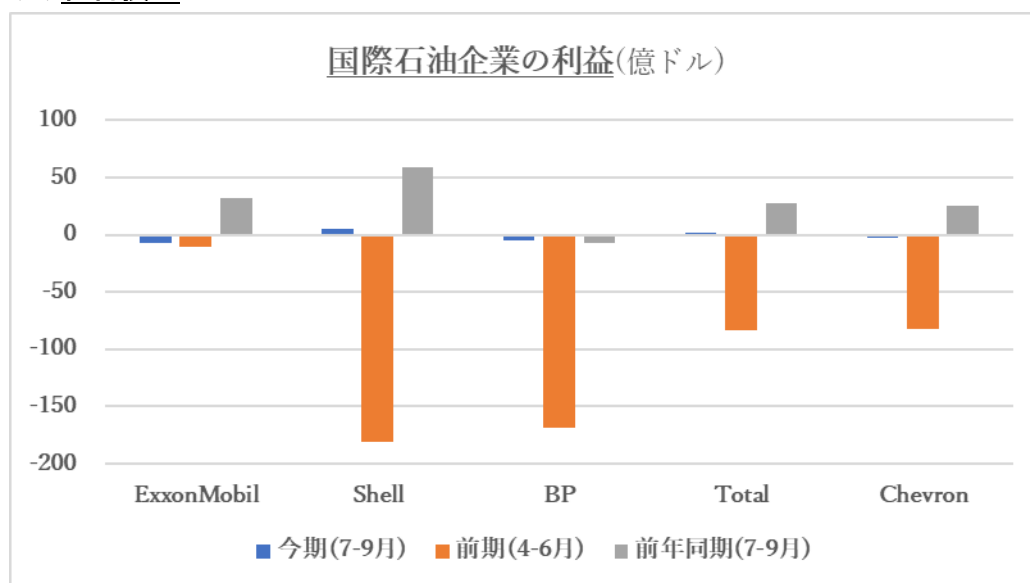
このように5社の売上はおしなべて前期を上回ったが、それでも前年同期を大きく下回っており最悪の状況は脱したように見える。但し欧州ではコロナ禍の第二波あるいは第三波が押し寄せており、今後も予断を許さない状況である。各社の売上がコロナ禍以前の状態を取り戻すのは今少し時間が必要と思われる。

コロナ禍によるエネルギー需要の減少は後述する各社の原油・天然ガス生産量が全社で昨年同期を下回っていることに表れている。また価格については Shell の決算付属資料で見ると、Brent 原油の今期平均価格は42.94ドル/バレルであった。これに対して前期(4-6月)の平均価格は29.55ドル/バレルであり、前年同期(昨年7-9月)のそれは62.00ドル/バレルであった。今期の価格は前期比145%(1.5倍)、前年同期比では▲31%である。同様に WTI 原油価格で見ると前期比146%(1.5倍)、前年同期比▲27%で Brent 原油とほぼ同じ傾向を示している。さらに天然ガスの価格を Henry Hub 建てで見ると、今期の価格は前期比146%(1.5倍)、前年同期比▲16%である。

これらの事実から、今期の売上高の減少は原油価格との連動性が高いことがわかる。

(Shell と Total は赤字脱却、その他 3 社は前期に続き欠損！)

(4) 総合損益

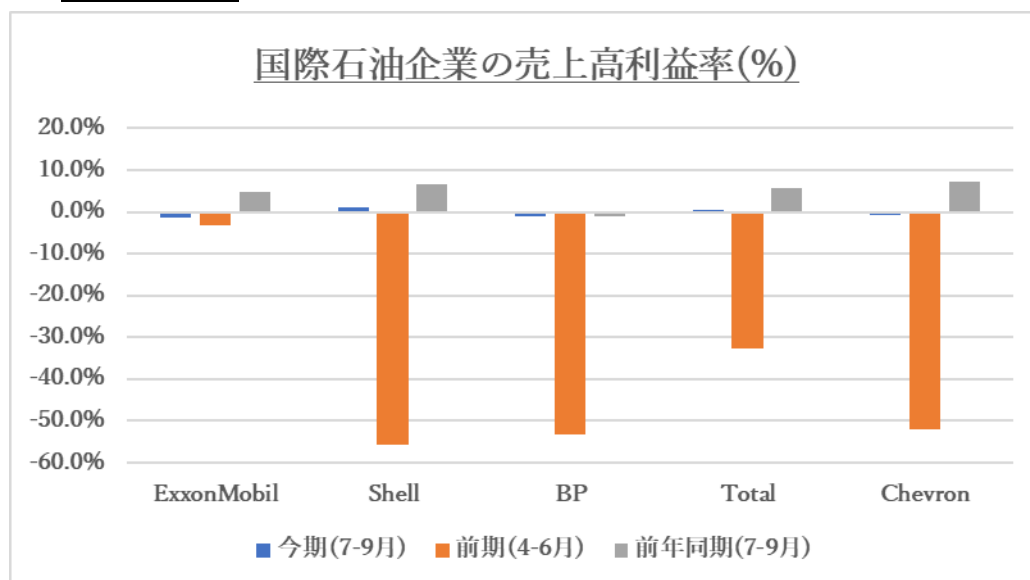


前期は五社すべてが赤字であり、そのうち Shell 及び BP は100億ドル以上の赤字決算であったが、今期は Shell 及び Total がわずかながらも利益を計上している。その他の ExxonMobil、BP、Chevron3社は引き続き赤字であった。

各社ごとに比べると、Shellは4.9億ドル、Totalは2億ドルの黒字であった。Shellの場合、前期は5社の中で最も損失額が大きかったが(▲181億ドル)、今期はプラスに転じ5社の中では最も良い成績を残している。Chevron、BP 及び ExxonMobil の各社は赤字決算であり、赤字額は Chevron▲2.1億ドル、BP▲4.5億ドルで、ExxonMobil は5社の中で最も赤字幅が大きかった(▲6.8億ドル)。前期(4-6月期)は各社とも大幅な赤字であり、最も赤字が小さかった ExxonMobil の▲11億ドル

に対し Total、Chevron は▲80億ドル強、BP、Shell はそれぞれ▲168億ドル、▲181億ドルの巨額の赤字決算であった。これに比べると今期は赤字が大幅に減少または黒字に転じている。

(5) 売上高利益率



今期の売上高利益率は Shell が1.1%と、5社の中では最も高く、続いて Total が0.6%であり、他の3社は Chevron が▲0.8%、BP は▲1.0%、ExxonMobil ▲1.5%であった。前期は Shell、BP、Chevron 各社が▲50%台の大幅なマイナスであったのに比べ今期は各社とも大きく好転している (Total の前期は▲33%、ExxonMobil は▲3%)。但し昨年同期は Chevron 7.1%、Shell 6.6%、Total 5.8%、ExxonMobil 4.9%など各社とも従来とほぼ同様の利益率を確保しており (BP のみはマイナス)、これに比べると今期の利益率は見劣りする。

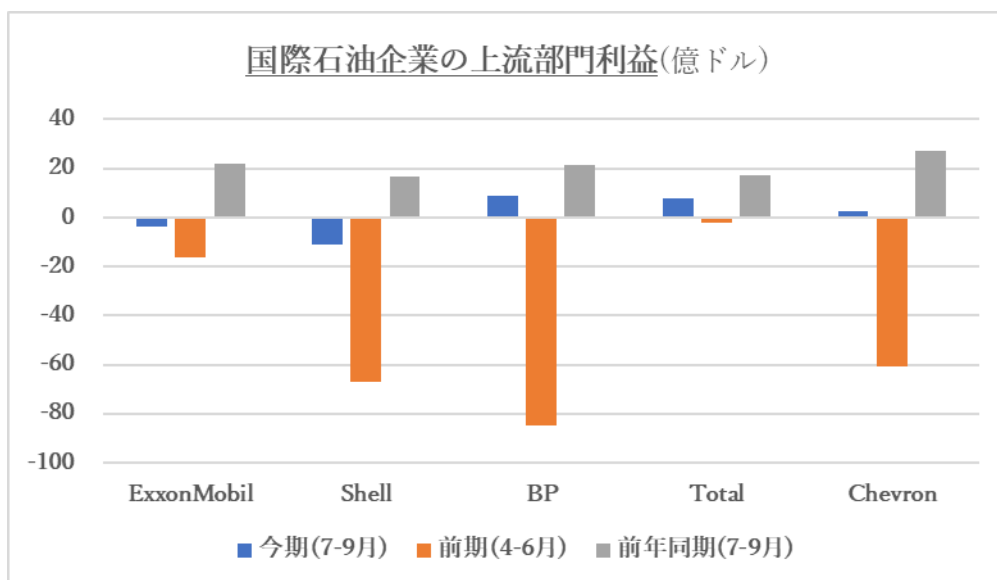
各社とも今後の業績向上に必死に取り組んでいるがコロナ禍の影響がいつまで続くか不明であり、また地球温暖化防止策として化石エネルギーから電気あるいは再生エネルギーへの転換が推奨されており、エネルギー産業を取り巻く環境の変化には不確定要素が多い。本年の業績が底となり、国際石油企業各社がかつての高収益を取り戻すことができるか否かは未知数であると言わざるを得ないであろう。

(BP、Total、Chevron は黒字に転換！)

(5) 上流部門の利益

(図: <http://menadabase.maeda1.jp/2-D-4-56.pdf> 参照)

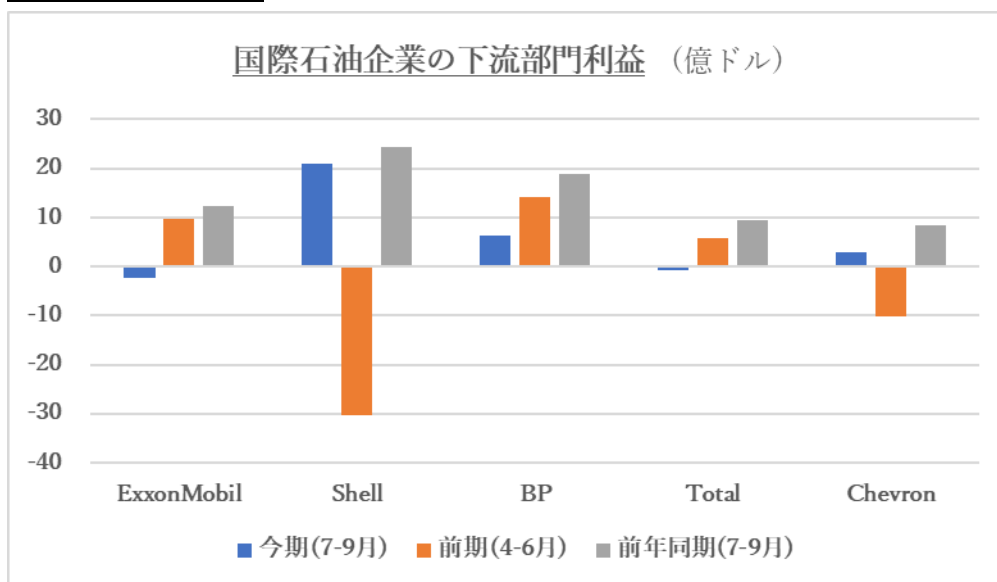
利益を上流部門(石油・天然ガスの開発生産分野)と下流部門(石油精製および製品販売分野)に分けて比較すると、まず上流部門は BP、Total 及び Chevron 3社が利益を計上、ExxonMobil と Shell は赤字であった。前期は5社いずれもが赤字であり、特に BP、Shell、Chevron が大幅なマイナスであったことに比べると今期は大きく改善している。



BPの上流部門の利益は5社の中で最も大きい8.8億ドルであり、続いてTotalがBPに並ぶ8億ドルの利益を計上、Chevronも2.4億ドルの黒字であった。これに対してExxonMobil及びShellは前期に続きマイナスで、その赤字幅はそれぞれ▲3.8億ドルおよび▲11億ドルであった。前期(4-6月期)はBPが▲85億ドル、Shell及びChevronが▲60億ドル台の大幅な赤字を計上している。このような厳しい決算を踏まえChevron、Shellは石油・天然ガス鉱区の売却など上流部門の資産圧縮による減損損失を前期決算書に計上、BPも今後数年間で石油・天然ガスを大幅に減産し、再生可能エネルギー開発に傾注すること表明している。

(Shell、Chevronは赤字から黒字に、ExxonMobil、Totalは黒字から赤字に明暗を分ける！)

(6) 下流部門の利益



一方下流部門の利益が最も多かったのはShell(21億ドル)で、BP(6.4億ドル)、Chevron(2.9億ドル)も黒字であった。これに対してExxonMobil及びTotalはそれぞれ▲2.3億ドル、▲9千万ドルの赤字であった。

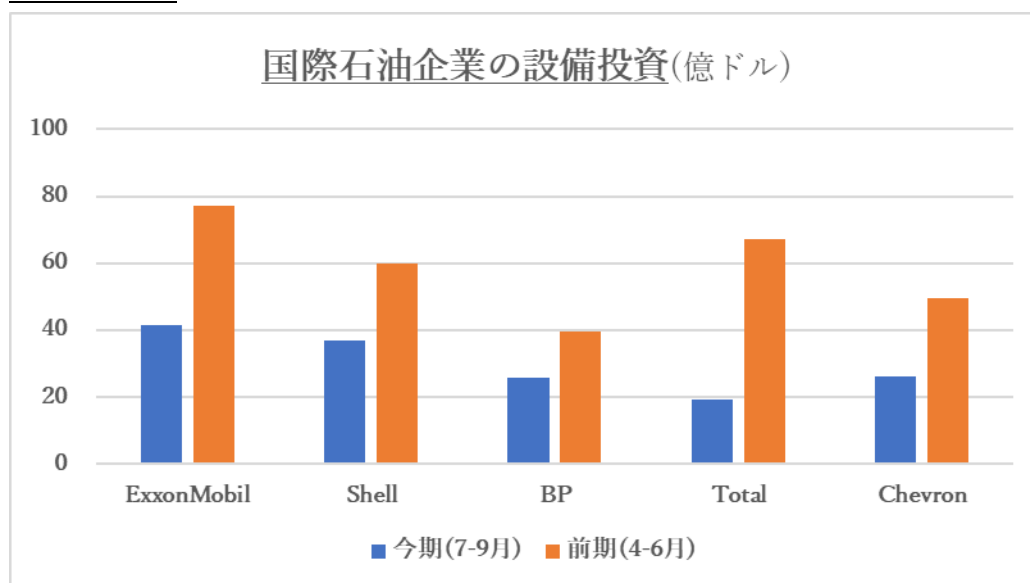
前期(4-6月)はShell及びChevronが赤字であったのに対し、ExxonMobil、BP、Total3社は黒字

であり、2期続けて黒字であった BP を除く4社は明暗が逆転している。これまで国際石油企業は原油価格が安く上流部門の利益が出ないときは、安い原油を精製する下流部門が利益を計上、逆に原油価格が高い時は、下流(精製)部門が低収益、上流部門は高収益となり、相互に損益を補い合う構図が五社に共通していた。しかし最近各社が独自の戦略を打ち出しており、それが業績に反映されているように見受けられる。

なお上記(2)総合損益は各社によって石油化学品部門あるいはその他の損益を含むため上・下流部門の利益の合計額とは一致しないケースがある。

(各社とも設備投資を大幅に減額！)

(7)設備投資

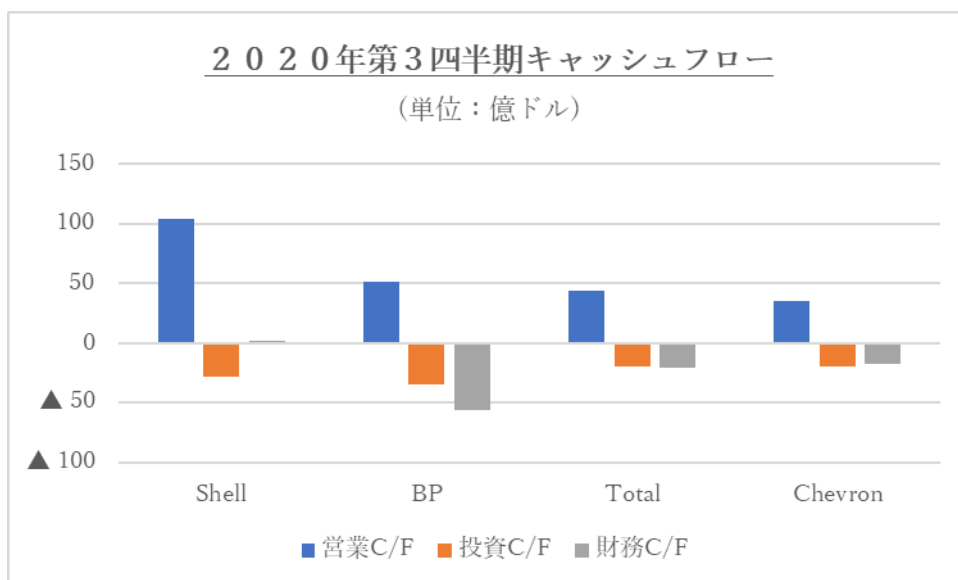


2020年7-9月期の設備投資額が最も多いのは ExxonMobil の41億ドルであり、続いて Shell が37億ドル、Chevron 及び BP が各26億ドル、Total は5社の中で最も少ない19億ドルであった。前年同期(2019年7-9月期)の設備投資は ExxonMobil 77億ドル、最も少ない BP でも40億ドルだったことに比較すると各社は設備投資を4割乃至7割削減している。

(8)キャッシュ・フロー¹

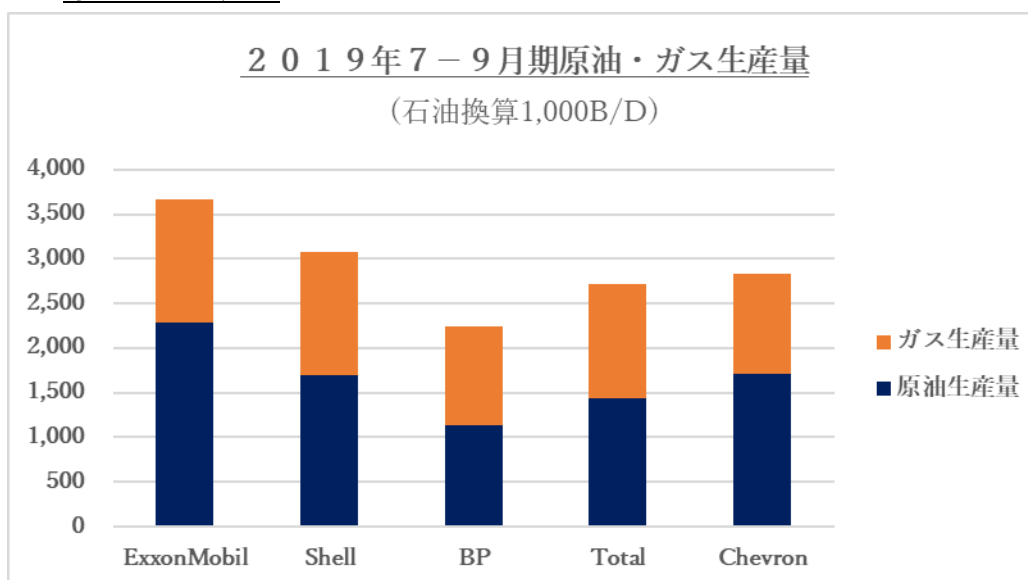
(注) 各社の第3四半期決算書では、Shell、BP 及び Total は7-9月の3か月間のキャッシュ・フロー(以下 C/F)を明記している。しかし Chevron は1-9月の9か月間の C/F フローが表示され、また ExxonMobil は営業 C/F のみの明記にとどまっている(年間決算書では完全な C/F シートが公開されている)。従ってここでは Chevron について前期の1-6月 C/F と1-9月の C/F の差額を7-9月 C/F とし、Shell、BP 及び Total と合わせて比較することとする。

今期の4社の営業 C/F は Shell が104億ドルで最も多く、次いで BP が52億ドル、Total 44億ドルであり、Chevron は4社の中では最も少ない35億ドルにとどまっている。前期は販売不振及び価格の低迷により売上、利益が大幅に落ち込み営業活動におけるキャッシュ・ジェネレーションも過去1年間で最低の水準に落ち込んだが、今期は各社とも改善している。



投資 C/F によるキャッシュの流出は BP が最も多く35億ドルであった。これに次ぐのが Shell の28億ドルであり、Total 及び Chevron は共に19億ドルであった。財務 C/F の収支は Shell のみが2億ドルの収入超過であり、その他3社は支出超過であった。財務 C/F は借入金の支払い金利、借入金の返済あるいは新規借入で構成され、通常、投資が少ない時は既存借入金を返済し、新規借入を控えて財務の健全化を図ろうとすることが多い。因みに BP、Total、及び Chevron の支出超過額は、BP 56億ドル、Total 21億ドル、Chevron 17億ドルであった。Shell、BP、Total はいずれも前期に新たな借入により手許現金を厚くしている。売り上げの激減に直面し、しかも早急な回復が見込めないため、運転資金の不足に備えたものと思われるが、Shell はなお資金の積み増しを行っているようである(後述「財務 C/F の推移」、「期末 C/F 残高の推移」参照)。

(8) 原油・ガス生産量(末尾表 1-D-4-22 参照)



今年7-9月の原油生産量はExxonMobilが平均日量229万バレル(以下 B/D)で5社の中では唯一200万 B/Dを超えている。その他の4社はChevron(171万 B/D)、Shell(170万 B/D)、Total(144万 B/D)である。BPは5社の中で最も少ない113万 B/DでExxonMobilの5割にとどまっている。前年同期と比較すると各社とも大幅に減少しており、Total は二桁▲17%の減少である。その他の

4社も Shell が▲9.3%減で減少幅が最も少ない ExxonMobil は▲4.4%減となっている。

天然ガスの生産量も ExxonMobil が最も多く日量83億立方フィート(以下 cfd)であり石油換算では139万 B/D であった。第2位の ExxonMobil は80億 cfd で、Total、Chevron 及び BP の生産量は60億cfd台である。原油と同様5社すべてが昨年同期の生産量を下回っており、Shell 及び BP は二桁台の大幅な下落である。

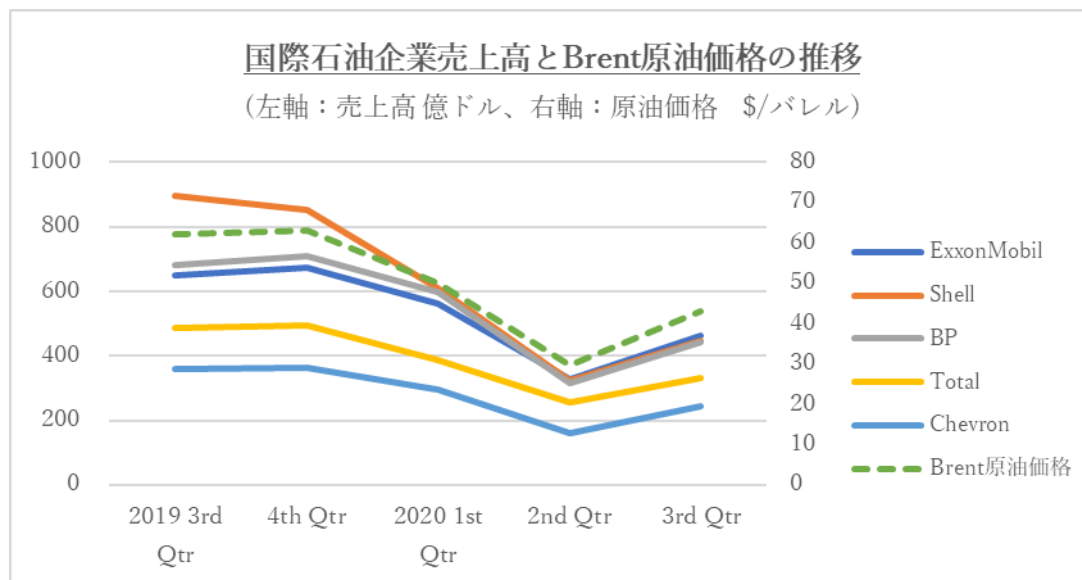
天然ガスを石油に換算した原油・天然ガスの合計生産量では ExxonMobil は367万 B/D、これに次ぐのが Shell の308万 B/D である。その他の各社はいずれも300万 B/D を下回っており、Chevron 283万 B/D、Total 272万 B/D、BP 224万 B/D である。前年同期比では5社すべてが下回っており、ExxonMobil は6%減少している。

石油と天然ガスの比率を見ると、ExxonMobil は石油62%、天然ガス38%であり5社の中では石油の比率が最も高い。Chevron、Shell、Total の3社も石油の比率が天然ガスを上回っており、BPのみ石油と天然ガスの生産量がほぼ同じである。

2. 2019年第3四半期以降の四半期別業績の推移

五社の売上高、利益(全体、上流部門および下流部門)、設備投資、キャッシュ・フロー、原油・天然ガス生産量に関する2019年第3四半期以降今期までの四半期ごとの業績推移は以下の通りである。

(1) 売上高の推移



2019年第3四半期から2020年第3四半期に至る四半期ベースの売上高の推移を見ると各社とも昨年第4四半期以降今年第2四半期にかけて売上高が減少、特に今年第2四半期(4-6月)は急激に落ち込んだ。今期(7-9月期)は売り上げが回復したが、まだ一3月期を下回る状況である。

2019年第3四半期の売上が最も大きかったのは Shell の895億ドルであり、Shell に次ぐ BP の売上高は683億ドルで約200億ドルの差があった。第3位以下は ExxonMobil(650億ドル)、

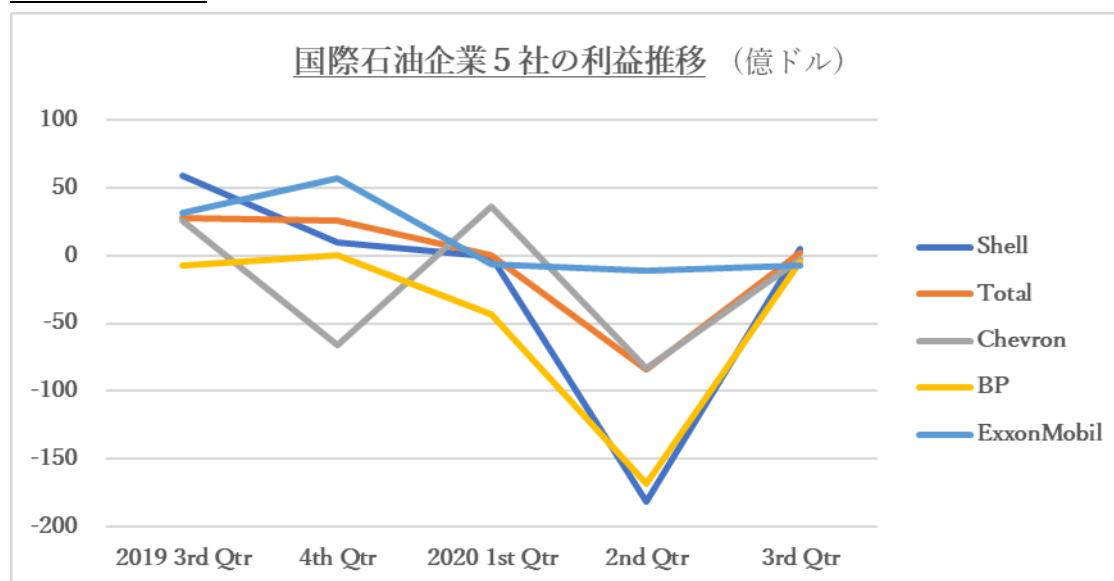
Total(486億ドル)、Chevron(361億ドル)であり、5社の順位はその後今年第1四半期まで変化がなかった。

しかしトップのShellは昨年第4四半期以降急激に売り上げが減少、今年第1四半期はShellとBPの売上高はそれぞれ610億ドル、597億ドルとなり差がなくなっている。さらに第2四半期には5社揃って30~50%の減収となり、ExxonMobilが売上高326億ドルでShellの325億ドルをわずかに上回り、BP(317億ドル)を含め3社が拮抗した。これはコロナ禍による需要減に加え原油価格が半値まで暴落したことが大きな原因である。

7-9月期は中国で景気回復の兆しが見られ、また原油価格もOPECとロシア、いわゆるOPEC+(プラス)が協調減産体制を強化したことにより価格も上向いた。この結果各社の今期(7-9月期)売上高は前期を4割前後上回っている。但しこれでも前年同期に比べると3分の2程度の水準にとどまっている。

因みに過去1年間のBrent価格の四半期平均価格をShellの決算付属資料で見ると、62ドル/バレル('19 3rd Qtr)→63ドル/バレル('19 4th Qtr)→50ドル/バレル('20 1st Qtr)→30ドル/バレル('20 2nd Qtr)→43ドル/バレル('20 3rd Qtr)と推移しており、5社共に価格と売上高が極めて密接な相関関係にあることがわかる。

(2)利益の推移

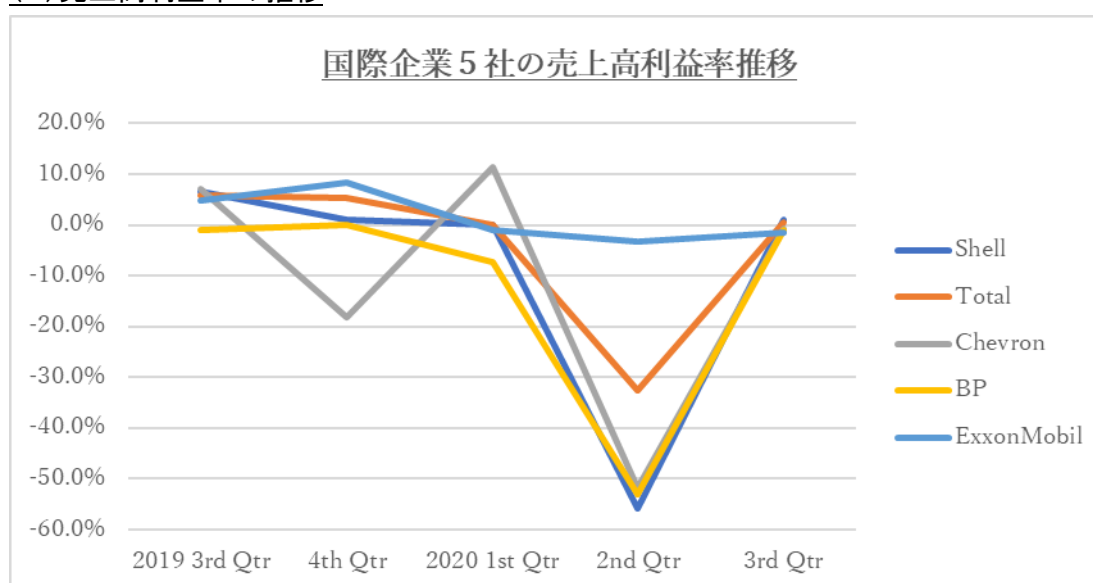


過去1年間の四半期ごとの利益水準は増減幅が小さいExxonMobilを除きその他の各社は大きく変動している。前期(4-6月期)は5社すべてがマイナス決算になり、ExxonMobil(▲11億ドル)以外の4社はTotal、Chevronが80億ドル台の赤字を計上、ShellとBPは▲160~180億ドルの巨額の欠損を計上している。今期は各社とも大幅な赤字を免れShell及びTotalは黒字に転換したが黒字額は少ない。またその他の3社も赤字幅は小さく、5社は損益の境界線を挟んでしのぎを削っている状況である。

過去一年間の推移を見ると、昨年第3四半期の利益はShellの59億ドルを筆頭に、ExxonMobil

32億ドル、Total 28億ドル、Chevron 26億ドルで、BP のみが▲7億ドルの赤字であった。第4四半期には ExxonMobil が Shell に替わってトップの57億ドルの利益を計上、Chevron は▲66億ドルの大幅な損失を出している。さらに今年第1四半期には Chevron が前期のマイナスから一転して36億ドルの利益を計上、Total と Shell は収支トントンであり、BP と ExxonMobil はマイナス決算に転落した。そして先に述べた通り前期(4-6月期)は5社すべてが赤字であり、ExxonMobil は▲11億ドルで比較的傷は浅かったが、Chevron と Total は80億ドル強の欠損となり、BP と Shell はそれぞれ▲168億ドル、▲181億ドルの巨額の赤字を強いられている。そして今期(7-9月期)は各社の損益はほとんど差がない状況である。

(3) 売上高利益率の推移



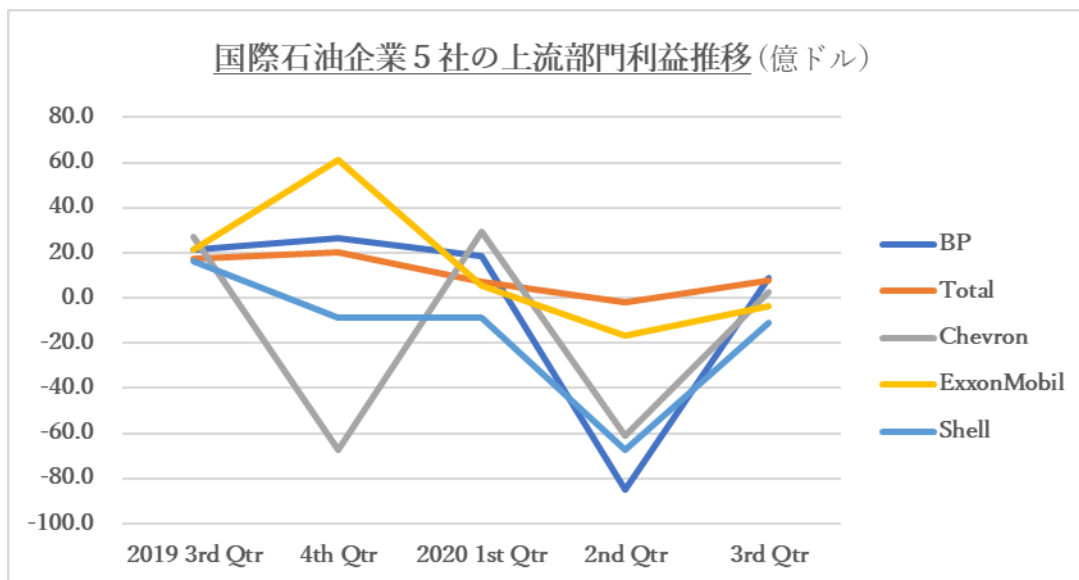
1年前の昨年第3四半期の五社の利益率は Chevron が7.1%と最も高く、次いで Shell 6.6%、Total 5.8%、ExxonMobil 4.9%と続き、BP は5社の中で唯一▲1.1%の損失率であった。

各社のその後の利益率の推移を見ると Shell は6.6%(3rd Qtr)→1.1%(4th Qtr)→0.0%(’20 1st Qtr)→▲55.8%(2nd Qtr)→1.1%(3rd Qtr)と前期に大きく落ち込んでいる。Total も Shell と同様の傾向を示している(5.8%→5.3%→0.1%→▲32.5%→0.6%)。

Chevron は7.1%(3rd Qtr)→▲18.2%(4th Qtr)→11.4%(’20 1st Qtr)→▲51.9%(2nd Qtr)→▲0.8%(3rd Qtr)と激しいアップダウンを繰り返しており、BP は▲1.1%(3rd Qtr)→0.0%(4th Qtr)→▲7.3%(’20 1st Qtr)→▲53.2%(2nd Qtr)→▲1.0%(3rd Qtr)と低空飛行を続けている。ExxonMobil の利益率は4.9%(3rd Qtr)→8.5%(4th Qtr)→▲1.1%(’20 1st Qtr)→▲3.3%(2nd Qtr)→▲1.5%(3rd Qtr)であり、今年第一四半期から3期連続でマイナスであるが、他社に比べ振幅の幅が小さいのが特色である。

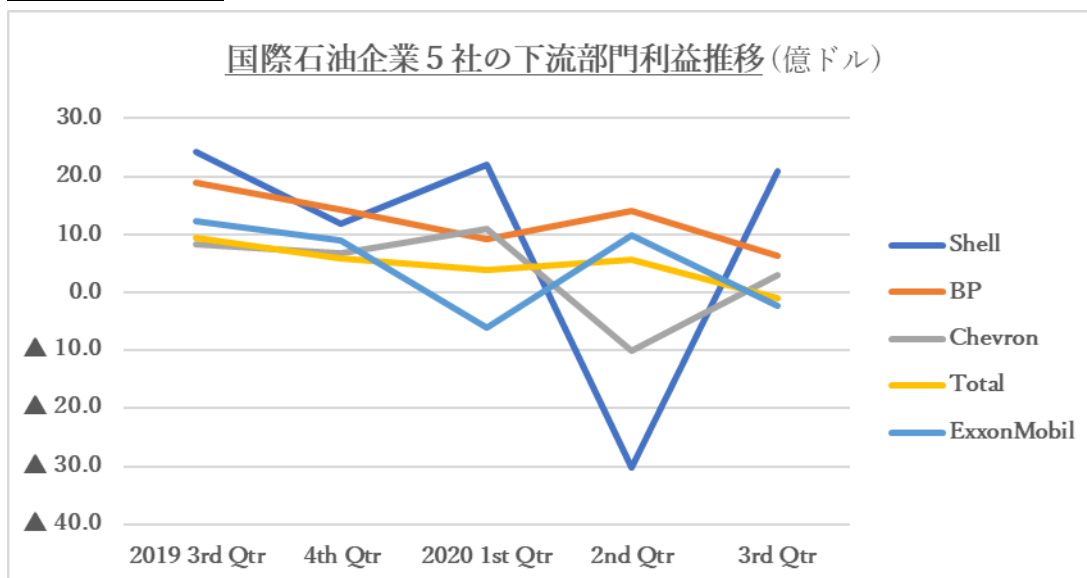
(4) 部門別利益の推移

(4-1) 上流部門



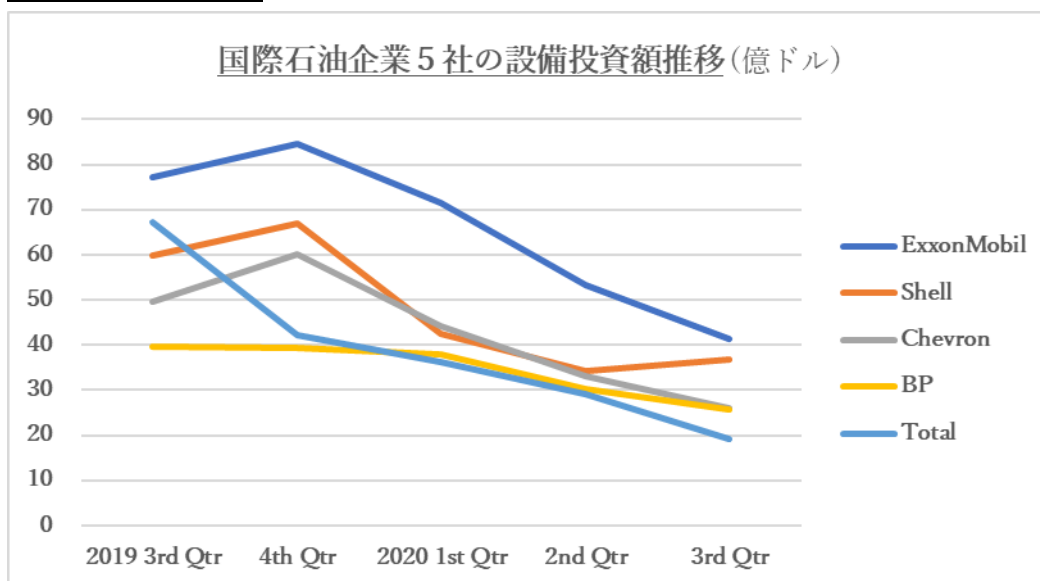
前年の2019年第3四半期の上流部門の利益は Chevron が27億ドルで最も多く、次いでBP 及び ExxonMobil が21億ドル強、Total と Shell が17億ドル前後で並んでいた。第4四半期は大きく変動し、Chevron が67億ドルという巨額の赤字を計上し一気に最下位に転落した一方、ExxonMobil の利益は61億ドルに急伸し5社の中で上流部門の利益トップに立った。2020年第1四半期は Chevron の利益が急回復してトップに振り返り、ExxonMobil は利益が一桁台の5億ドルに減少し、BP あるいは Total を下回った。前期は5社すべてがマイナスとなり、中でも BP は▲85億ドルの大幅な赤字を計上、Shell 及び Chevron も▲60億ドル台のマイナスとなった。今期は各社とも収益が改善し、BP、Total、Chevron 3社は黒字に転換、Shell と ExxonMobil は赤字であったが赤字幅は少なくなっている。

(4-2) 下流部門



各社の下流部門は全般的に見れば上流部門に比べ利幅は小さいながら堅実な決算状況であり、特に昨年第3四半期及び第4四半期は全社が利益を計上している。但し1年間を通じては業績は下落傾向にあり、今年第1四半期は ExxonMobil が赤字に陥り、第2、第3四半期も5社中の2社が赤字に転落している。

(5)設備投資の推移

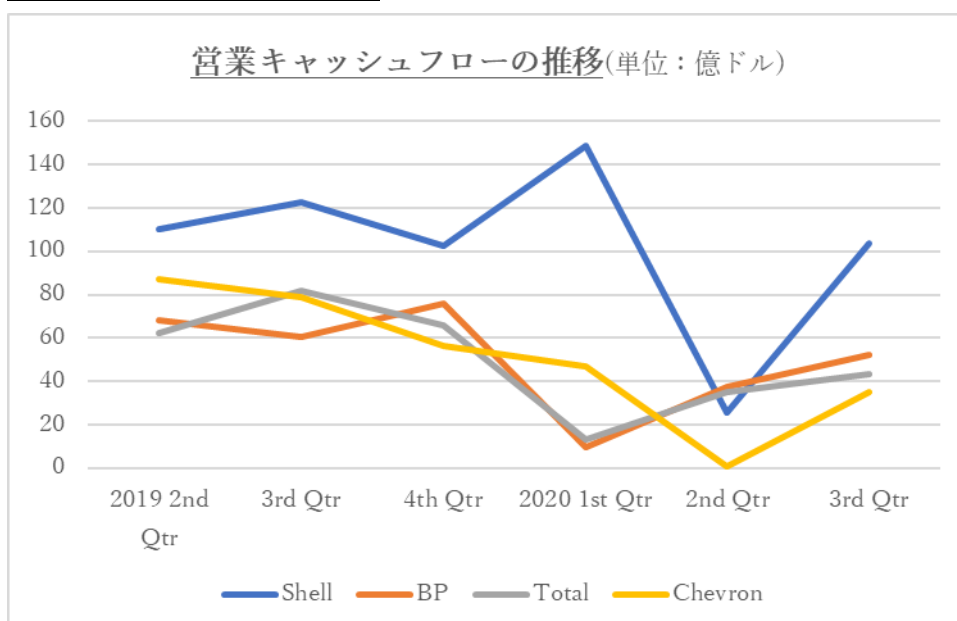


5社の四半期ベースの設備投資額は ExxonMobil が每期最も多くの投資を行っている。同社の各期の投資額は77億ドル('19 3rd Qtr)→85億ドル('19 4th Qtr)→71億ドル('20 1st Qtr) →53億ドル(2nd Qtr)→41億ドル('20 3rd Qtr)であった。

同社に次ぐ投資を行っているのは Shell であり、その金額は60億ドル('19 3rd Qtr)→67億ドル('19 4th Qtr)→43億ドル('20 1st Qtr) →34億ドル(2nd Qtr)→37億ドル('20 3rd Qtr)と推移している。Chevron の投資額は Shell とほぼ同じ水準を維持している。Total は昨年第3四半期こそ ExxonMobil に次ぐ67億ドルの投資を行っているが、その他の四半期は BP と並ぶ30億ドル前後で推移し今期は5社で最も少ない19億ドルにとどまっている。

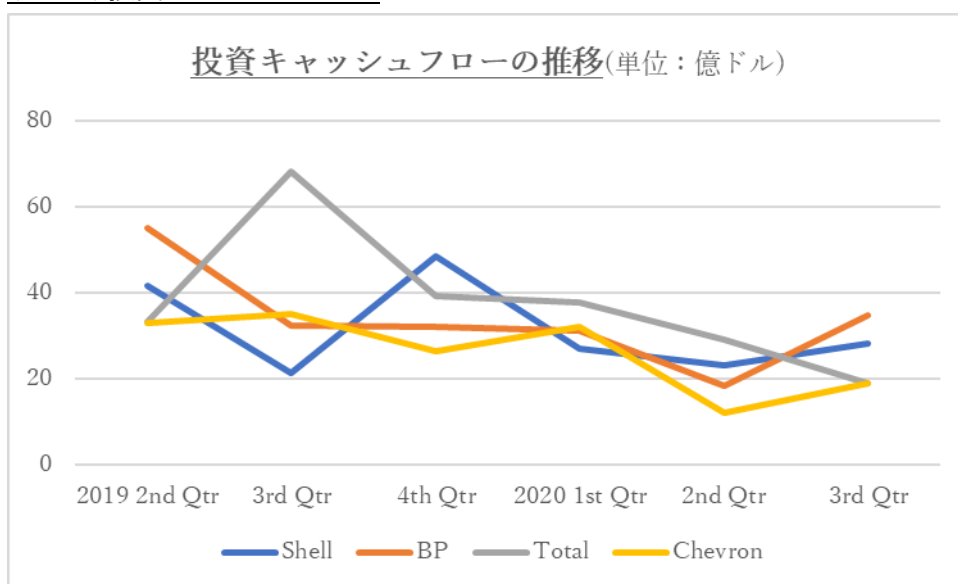
(6)キャッシュ・フローの推移

(6-1)営業キャッシュ・フロー



2019年4-6月の各社の営業 C/F は Shell が110億ドルと最も多く、Chevron は87億ドル、BP 68億ドル、Total 63億ドルであった。その後昨年末までは4社ともほぼ横ばい傾向であり、Shell は毎期100億ドル以上、その他の3社は60~80億ドルのキャッシュを生み出している。しかし今年1-3月期は明暗が分かれ、Shell の営業 C/F は150億ドル近くに達したが、Chevron は47億ドルに落ち込み、BP と Total はそれぞれ10億ドルと13億ドルに急減した。4-6月期には Shell が急減して26億ドルにとどまり BP、Total を下回った。Chevron は前期をさらに下回り営業キャッシュ・フローは1億ドルにとどまった。今期は4社とも増えて Shell は再び100億ドルのキャッシュ・フローを生み出している。その他の3社も35~52億ドルに回復している。

(6-2)投資キャッシュ・フロー



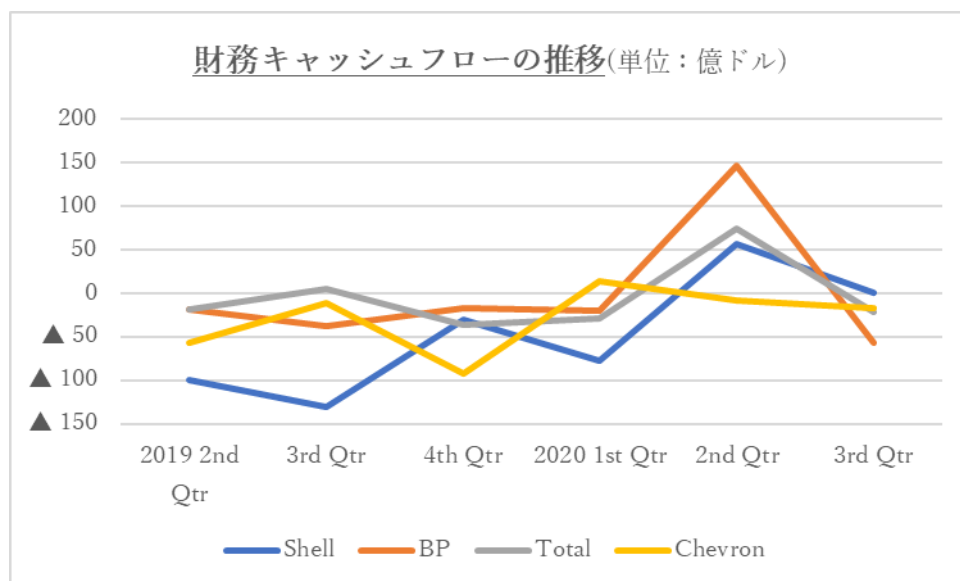
2019年4-6月の投資 C/F は BP が55億ドル、Shell 42億ドル、Total と Chevron は33億ドルであった。BP はその後今年1-3月までは30億ドル強で推移し、4-6月は18億ドルに減少した後今期は再び30億ドル台半ばに戻っている。Shell は今年第1四半期まで増減を繰り返し、その後は20億ドル台で推移している。Total は昨年第3四半期に68億ドルと他社の2倍以上のキャッシュ・フローを記録したが以後は4期連続で減少、今期は19億ドルにとどまっている。Chevron の投資キャッシュ・フローは昨年第2、3四半期の30億ドル強から今年の第2、3四半期は20億ドルを下回る水準である。4社に共通しているのは今年に入り投資を抑制していると思われることである。

(6-3)財務キャッシュ・フロー

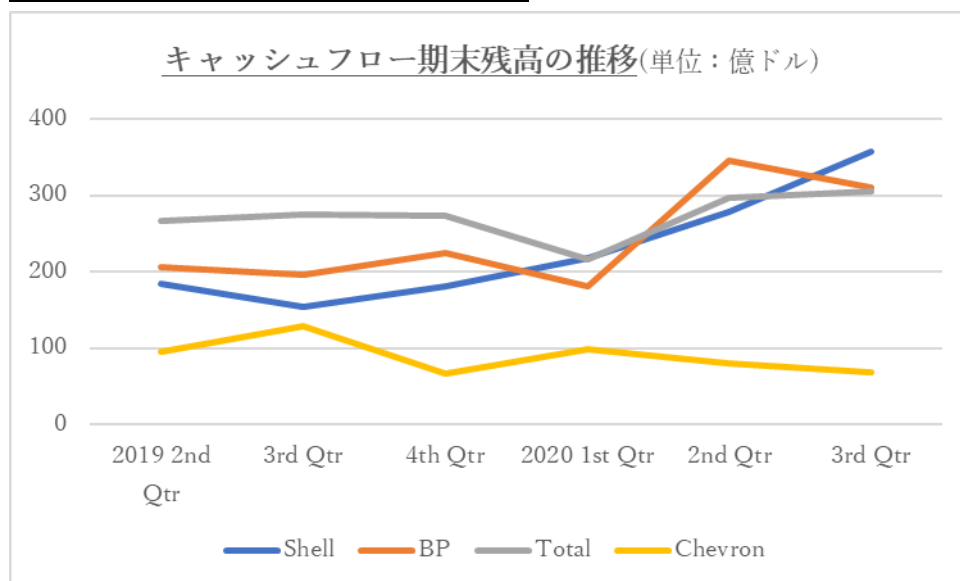
3社の財務 C/F は昨年4-6月期から今年1-3月期まで大きな変化は見られなかったが、今年4-6月期に Chevron 以外の3社がそれまでのマイナスから一挙に大幅なプラスに転じていることが大きな特徴である。これら3社は多額の新規借入を行ったのである。

例えば Shell の財務 C/F は昨年4-6月期は▲99億ドルであり、その後多少の増減はあったものの、今年1-3月期は▲78億ドルであった。しかし4-6月期は一挙に57億ドルのプラスに転じ前期との差は135億ドルに達している。BP も Shell と同様昨年1-3月期から今年1-3月期までは▲20~40億ドルの水準であったが、4-6月期は3社中最も多いプラス147億ドルであり前期との差

は170億ドル弱である。しかし今年4-6月期は BP▲56億ドル、Total▲21億ドルなど昨年の水準に戻る動きが見られる。



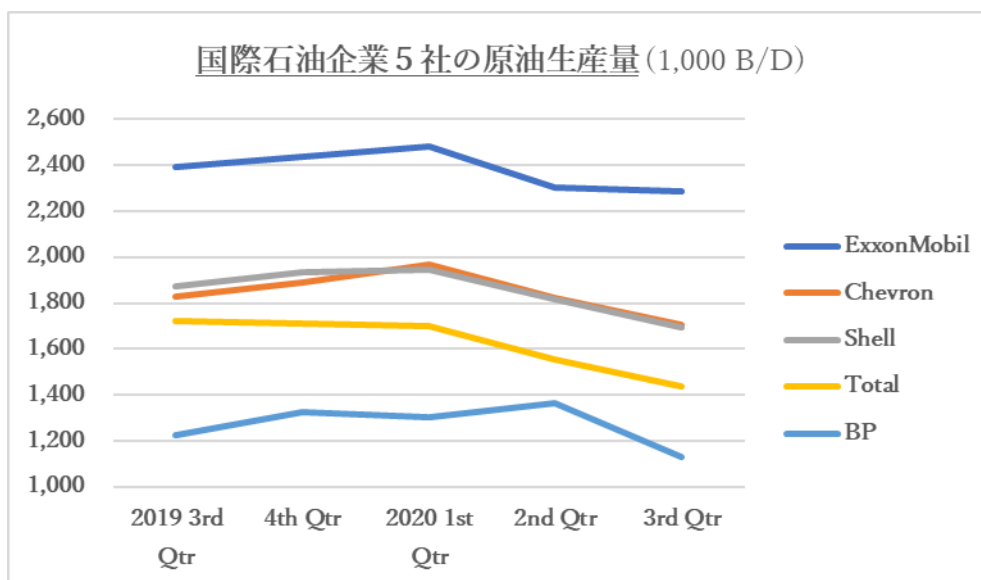
(6-4) キャッシュ・フロー期末残高の推移



各四半期の営業 C/F、投資 C/F 及び財務 C/F を差引した期末残高の推移を見ると、昨年6月末の残高が最も多かったのは Total の267億ドルで、BP 及び Shell はそれぞれ207億ドル、185億ドル、最も少ない Chevron は96億ドルであった。同年9月末はほぼ横ばいであったが、その後 Shell は一貫して増加しており、今年9月末の残高は357億ドルに達している。BP 及び Total も過去一年間で残高は増加しており今年9月末は Shell に次いで310億ドル前後の残高である。このようななかで Chevron のみは残高が漸減傾向にあり、前年9月末の129億ドルが今年9月末には68億ドルとほぼ半減、他社の4分の1から3分の1程度にとどまっている。

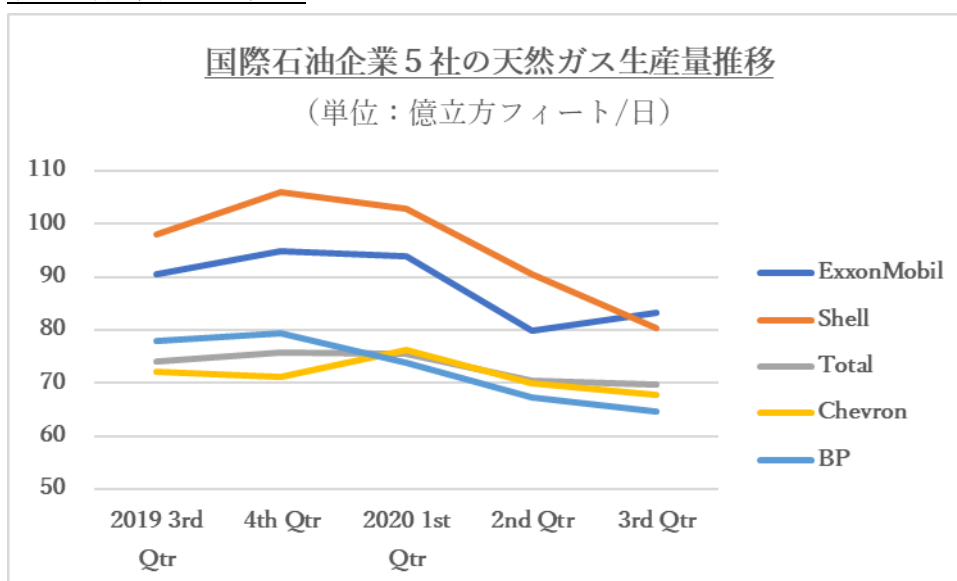
(7) 原油・天然ガス生産量の推移

(7-1) 原油生産量



過去1年間の四半期ごとの原油生産量の推移を見ると ExxonMobil が他社を引き離して5期連続でトップを守っている。ExxonMobil の生産量は5社の中でただ1社200万 B/D 台を維持しており、今年第3四半期の生産量は229万 B/D であった。ExxonMobil に次ぐ二番手グループは Shell と Chevron であり、今期の生産量は共に170万 B/D である。両社の生産量は今年第1四半期まで増加傾向にあったがその後は連続して減少、今期の生産量は1-3月期に比べ25万 B/D 以上減少している。Total も2019年第3四半期172万 B/D をピークに減少を続け今期は過去1年間で最も少ない144万 B/D にとどまっている。BP は5社の中で原油生産量が最も少なく1年前は122B/D でトップ ExxonMobil の6割であったが、その後は持ち直しており、前期は137万 B/D まで増えたが、今期は過去1年間で最も少ない113万 B/D にとどまっている。5社ともに過去1年間で原油生産量は減少し続けている。これはコロナ問題で需要が減退したことが大きな要因であろうが、加えて国際石油企業が石油依存からの脱却を戦略の一つとしていることも理由と考えられる。

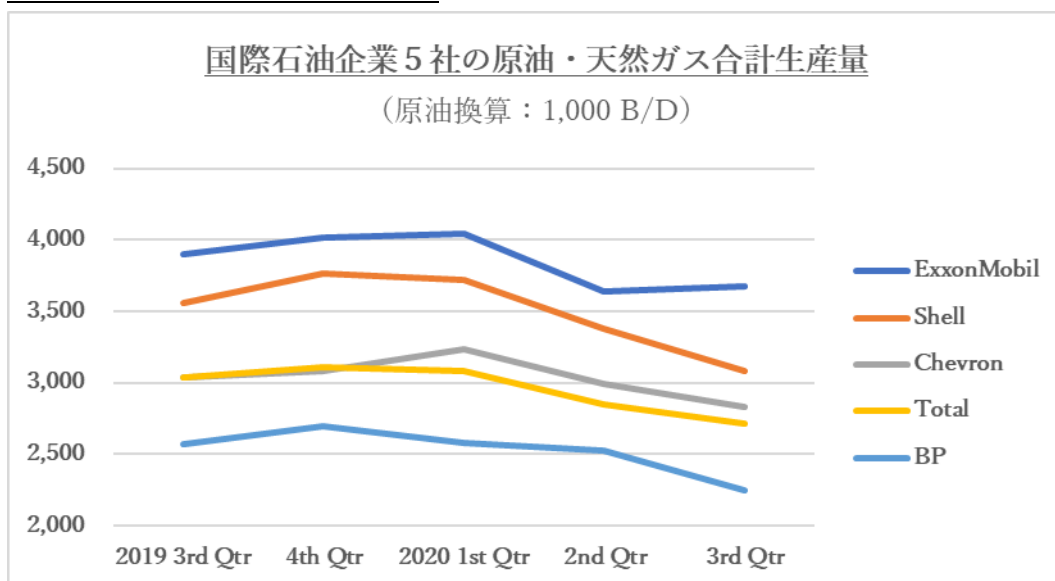
(7-2)天然ガス生産量



天然ガスの生産量は Shell と ExxonMobil の上位2社と BP、Total、Chevron の下位3社の2グループに分かれている。Shell の過去1年間の生産量は98億立方フィート('19 3rd Qtr)→106億立方フ

イト(4th Qtr)→103億立方フィート(' 20 1st Qtr)→90億立方フィート(2nd Qtr) →80億立方フィート(3rd Qtr)であり今年に入ってから減少が著しい。ExxonMobil は今年4-6月期まで Shell とほぼ同様の軌跡をたどっており、両社の差は10億立方フィート前後で推移していたが、今期は Shell が減産、ExxonMobil は増産となりわずかではあるが ExxonMobil が5社のトップに躍り出ている。他の3社は5期を通じて大きな差は無いが、共に減産傾向にある。過去1年間でガス生産量は減少しており、上記原油生産と同様、コロナ禍の影響に加え国際石油企業各社は脱化石燃料に拍車がかかっているように見受けられる。

(7-3)原油・天然ガス合計生産量



天然ガスを石油に換算した原油・天然ガスの合計生産量の推移を見ると、生産量が最も多い ExxonMobil は石油換算で390万 B/D(' 19 3rd Qtr)→402万 B/D(4th Qtr)→405万 B/D(' 20 1st Qtr)→364万 B/D(2nd Qtr) →367万 B/D(3rd Qtr)である。これに次ぐ Shell は356万 B/D(3rd Qtr)→376万 B/D(4th Qtr)→372万 B/D(' 20 1st Qtr)→338万 B/D(2nd Qtr) →308万 B/D(3rd Qtr)であり、前期までは ExxonMobil よりも30万 B/D 前後少ない生産量で推移してきたが、今期は ExxonMobil が前期横ばいであったのに対し、Shell は減産となったため両社の差は60万 B/D に拡大している。

Chevron 及び Total の原油・天然ガス合計生産量は今年1-3月期まで300万 B/D をわずかに上回る水準であったが、前期と今期は両社とも300万 B/D を割っている。最も少ない BP の生産量は257万 B/D(' 19 3rd Qtr)→270B/D(4th Qtr)→258万 B/D(' 20 1st Qtr)→253万 B/D(2nd Qtr) →224万 B/D(3rd Qtr)であり ExxonMobil の6~7割程度である。

以上

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642
E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp

2020年7-9月期国際石油企業の業績

年		ExxonMobil	Shell	BP	Total	Chevron
売上高(百万ドル)	今期(7-9月)	46,199	44,717	44,251	33,142	24,451
	前期(4-6月)	32,605	32,491	31,676	25,730	15,926
	増減(%)	41.7%	37.6%	39.7%	28.8%	53.5%
	前年同期(7-9月)	65,049	89,541	68,291	48,589	36,116
	増減(%)	-29.0%	-50.1%	-35.2%	-31.8%	-32.3%
総合損益(百万ドル) (*)	今期(7-9月)	▲ 680	489	▲ 450	202	▲ 207
	前期(4-6月)	▲ 1,080	▲ 18,131	▲ 16,848	▲ 8,369	▲ 8,270
	増減(%)	-37.0%	-102.7%	-97.3%	-102.4%	-97.5%
	前年同期(7-9月)	3,170	5,879	▲ 749	2,800	2,580
	増減(%)	-121.5%	-91.7%	-39.9%	-92.8%	-108.0%
上流部門損益(百万ドル) (*)	今期(7-9月)	▲ 383	▲ 1,110	878	801	235
	前期(4-6月)	▲ 1,651	▲ 6,721	▲ 8,487	▲ 209	▲ 6,089
	増減(%)	-76.8%	-83.5%	-110.3%	-483.3%	-103.9%
	前年同期(7-9月)	2,168	1,651	2,139	1,734	2,704
	増減(%)	-117.7%	-167.2%	-59.0%	-53.8%	-91.3%
下流部門損益(百万ドル) (*)	今期(7-9月)	▲ 231	2,092	636	▲ 88	292
	前期(4-6月)	976	▲ 3,023	1,405	575	▲ 1,010
	増減(%)	-123.7%	-169.2%	-54.7%	-115.3%	-128.9%
	前年同期(7-9月)	1,230	2,433	1,883	952	828
	増減(%)	-118.8%	-14.0%	-66.2%	-109.2%	-64.7%
売上高利益率(%)	今期(7-9月)	-1.5%	1.1%	-1.0%	0.6%	-0.8%
	前期(4-6月)	-3.3%	-55.8%	-53.2%	-32.5%	-51.9%
	前年同期(7-9月)	4.9%	6.6%	-1.1%	5.8%	7.1%
設備投資(百万ドル)	今期(7-9月)	4,133	3,679	2,577	1,912	2,592
	前年同期(7-9月)	7,719	5,992	3,954	6,718	4,956
	増減(%)	-46.5%	-38.6%	-34.8%	-71.5%	-47.7%
原油生産量(1,000B/D)	今期(7-9月)	2,286	1,697	1,129	1,437	1,707
	前年同期(7-9月)	2,392	1,871	1,224	1,720	1,830
	増減(%)	-4.4%	-9.3%	-7.8%	-16.5%	-6.7%
ガス生産量(100万 cfd)	今期(7-9月)	8,316	8,027	6,457	6,973	6,764
	前年同期(7-9月)	9,045	9,810	7,795	7,399	7,215
	増減(%)	-8.1%	-18.2%	-17.2%	-5.8%	-6.3%
原油・ガス合計生産量 (石油換算 1,000B/D)	今期(7-9月)	3,672	3,081	2,243	2,715	2,834
	前年同期(7-9月)	3,899	3,563	2,568	3,040	3,033
	増減(%)	-5.8%	-13.5%	-12.7%	-10.7%	-6.6%

¹ キャッシュ・フロー(cash flow、現金流量)とは、現金の流れを意味し、主に、企業活動や財務活動によって実際に得られた収入から、外部への支出を差し引いて手元に残る資金の流れのことをいう。欧米では古くからキャッシュ・フロー会計にもとづくキャッシュ・フロー計算書(Cash flow statement, C/F)の作成が企業に義務付けられており、日本でも 1999 年度から上場企業は財務諸表の一つとしてキャッシュ・フロー計算書を作成することが法律上義務付けられている。

キャッシュ・フローは(1)営業キャッシュ・フロー(日常的な、生産・営業活動によって稼得する現金と、それに要する現金コストの収支)、(2)投資キャッシュ・フロー(工場新設やビル建設・トラック購入などの設備投資・有価証券投資に要する現金支払いと資産売却による収入)及び(3)財務キャッシュ・フロー(財務活動による現金の収支)の3種類があり、これらの総合収支が会計期間内の現金収支であり、期首(前期末)の現金(及び現金相当物)の残高に期間内の収支を加えたものが当期末の現金(及び現金相当物)となる。

因みに上記項目の英語は Shell の決算書では以下のように表記されている。

営業キャッシュ・フロー:	Cash flow from operating activities
投資キャッシュ・フロー:	Cash flow from investing activities
財務キャッシュ・フロー:	Cash flow from financing activities
期間内収支:	Increase/(decrease) in cash and cash equivalents
期首残高:	Cash and cash equivalents at beginning of period
期末残高:	Cash and cash equivalents at end of period